

「オヤジ」の奈良真御所市に生まれた「地元球児」の上村は、監督・高嶋仁(現智弁和歌山監督)が指揮するチームの中心選手として2度の甲子園出場。日本大を出て母校に赴任し指導者になると、2度

小坂(左)は昨春制覇を亡き恩師に



下電器(現パナソニック)を経て、2005(同17)年1月から母校のコーチに。上村に誘われての就任だった。しかし、甲子園制覇を誓って再び師弟コンビを組んだ期間は短かった。その年12月11

心を思いやる監督を目指した小坂の、これが原点だったのかも。上村の遺志を継いで指揮官と

つた。上村が愛用していた帽子を被って応援した佳代は優勝の瞬間、「お父さんの悲願だった優勝を、小坂さんがやってくれたよ」と手を合わせ空を見上げた。 敬称略 (毎週金曜掲載)

オヤジのためのサッカー塾

水沼 貴史

イングランドで3季目を迎えた、サッカー日本代表FW岡崎慎司(31)は「レスター」が好調です。

イングランドで岡崎を一躍、有名にしたのはボールを持っていないとき、いわゆる「オフ・ザ

ボール」の動きです。「俺が俺が」とエゴむき出してゴール前に張り付く点取り屋も多い中、前線からボールを追いかけ回して守備でも貢献。2015-16シーズンに世界一厳しいとされるプレミアリーグで、レスターに奇跡の優勝をもたらした「影のヒーロー」として

て脚光を浴びました。でも反対に、「プレー中、すぐ倒れる」などの批判があったのも事実。昨季の通算5得点もFWとしては、かなり物足りない数字です。で、イングランド「3季目の正直」というわけではないですが、今季は「考え方を変えた」と宣言。

得点のチャンスでは、とにかく「ペナルティーボックスに飛び込む」ことを自らに課したのです。いいですね。すばらしい。シンプルに言えば、「FWだから点を取る」ということ。結果重視でスタートしたシーズン、すでにリーグ戦で2得点をマークしています。

みずぬま・たかし サッカー解説者。1960年5月28日、埼玉県生まれ。FWとして日産の黄金時代を築く。日本代表として32試合に出場、7得点。95年横浜マリノスの前期優勝後に現役引退。2006年には横浜FMマリノスのコーチ、同監督も務めた。

19日のリーグ杯で名門リバプール相手に、途中出場でゴールを決めました。献身的に守備をするFWとして評価されてきましたが、「ペナルティーボックスに飛び込む」ことを一番に考える意識改革を、見事に実践した得点シーンでした。

ペナルティーボックスに飛び込む



岡崎(右)は後半からの出場だったがゴールをゲット(共同)

リバプールとのリーグ杯3回戦では、岡崎はベッチスタートでしたが後半8分に登場。ゴール前に送られた浮き球を、MFビセンテ・イボラが頭で落としたところに、タミングよく駆け込んで右足でねじ込み、20分に先制点を奪いました。「飛び込む」というのも、ただ闇雲に走り回ればいいというものではありません。①ボールが来

プロセスは予想→判断→決断

と、いうことを予想する②ゴールを奪えると判断する③今がその時と蹴り込む決断をする④の3点がポイントです。この

「予想→判断→決断」の意識のプロセスが、今までの岡崎に足りなかった部分でもありました。草サッカーに興じるみなさんも、この動きをぜひ参考してください。ゴール量産は間違いなしです。(元J1横浜監督)

インフォメーション

《第62回全日本養神館合気道総合演武大会》9月30日(土)、東京・駒澤オリンピック公園内屋内球技場で開催される。合気道は自然の理法に逆らうことなく行う技で「和の武道」といわれ、海外にも広く知られる。主催の公益(財)合気道養神会には過去、米国のロバート・ケネディ夫妻、英国のアレクサンドラ女王ら多くの著名人が訪れている。大会当日の演武者は約800人。午前11時30分から入場料無料。